

# 令和4年度 河川魚類等調査・採集委託 報告書（概要版）

## 調査の概要

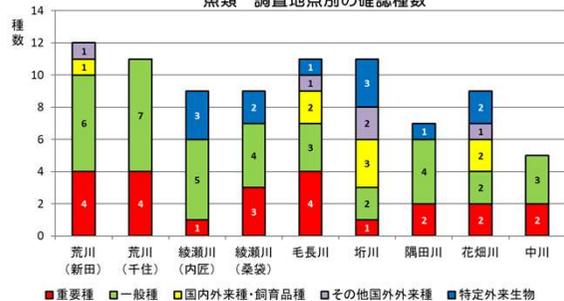
- 【目的】 足立区内の河川に生息する魚類等の生物の把握。  
 【調査地点】 足立区内の7河川9地点。（右図参照）  
 【方法】 投網、タモ網、小型定置網、刺網、カゴ網などを用いて、魚類の任意採集を実施しました。  
 綾瀬川の2地点では、底生動物の採集も実施しました。



## 結果の概要

- ・合計7月11科31種の魚類が確認されました。
- ・重要種（環境省RLなどの該当種）は9魚種でした。
- ・国外外来種は7魚種（このうち4魚種は特定外来生物）、国内外来種は4魚種でした。
- ・確認魚種の最も多かった地点は荒川の新田3丁目わんど広場（12種）、最も少なかった地点は中川の桑袋ビオトープ公園付近（5種）でした。
- ・確認魚種の生活型は、圻川、毛長川、花畑川では淡水魚の占める割合が高かったですが、ほかは様々なタイプの生活型がみられました。
- ・底生動物（綾瀬川のみ実施）は18種類が確認され、3種が国外外来種（うち1種が特定外来生物）に該当しました。

魚類 調査地点別の確認種数



魚類 生活型別の確認種数



### 毛長川（ふれあい橋上流付近）

9月8日/9日 曇り/曇り  
 【環境】 本調査地点中、最も上流に位置します。  
 【確認種】 **ニホンウナギ**、**ギンブナ**、**タイリクバラタナゴ**、タモロコ、**ツチフキ**、**スゴモロコ**属、ボラ、**カダヤシ**、マハゼ、**アマチチブ**、**ウキゴリ** 計11種



### 綾瀬川（桑袋ビオトープ公園付近）

7月11日/12日 曇り/曇り  
 10月3日/4日 晴れ/晴れ  
 【環境】 直立護岸となっていて、ヨシなどの抽水植物はみられません。干潮時には一部で泥干潟が干出します。  
 【確認種】 **オイカワ**、ボラ、**カダヤシ**、スズキ、**ブルーギル**、マハゼ、**アシシロハゼ**、シモフリシマハゼ、**アマチチブ** 計9種  
 （底生動物）ヒメタニシ、**カワヒバリガイ**、エラムミス、**テナガエビ**、**スジエビ**、**クロベンケイガ**など 計14種



### 圻川（葛西用水合流地点）

9月5日/6日 晴れ/晴れ  
 【環境】 両岸とも直立護岸となっていて、ヨシなどの抽水植物はみられません。  
 【確認種】 **コイ**（型不明）、**タイリクバラタナゴ**、モツゴ、タモロコ、**ツチフキ**、**スゴモロコ**属、**チャンネルキャットフィッシュ**、スズキ、**ブルーギル**、**オオクチバス**、**トウヨシノボリ**類 計11種



### 荒川（新田3丁目地先）

9月7日/8日 曇り/曇り  
 【環境】 フンドが造成されていて、抽水植物も多く生育しています。干潮時には泥干潟が形成されます。  
 【確認種】 **ニホンウナギ**、**コノシロ**、**コイ**（型不明）、ハス、**ニゴイ**、ボラ、スズキ、マハゼ、**アシシロハゼ**、シモフリシマハゼ、**アマチチブ**、ヒナハゼ 計12種



### 隅田川（新田さくら公園付近）

9月6日/7日 曇り/曇り  
 【環境】 フンドが造成されていて、抽水植物も多く生育しています。干潮時には泥干潟が形成されます。  
 【確認種】 ボラ、**ブルーギル**、シマイサキ、マハゼ、**アバハゼ**、シモフリシマハゼ、**アマチチブ** 計7種



### 荒川（千住新橋緑地）

9月8日 曇り  
 【環境】 河岸にフンドが整備されています。抽水植物が多く生育していて、干潮時には泥干潟もみられます。  
 【確認種】 **ニホンウナギ**、ウグイ、**ニゴイ**、ボラ、スズキ、ヒラギ、シマイサキ、マハゼ、**アシシロハゼ**、シモフリシマハゼ、**アマチチブ** 計11種



### 綾瀬川（内匠橋上流付近）

7月11日/12日 曇り/曇り  
 10月3日/4日 晴れ/晴れ  
 【環境】 両岸とも直立護岸となっていて、ヨシなどの抽水植物はみられません。  
 【確認種】 ウグイ、**チャンネルキャットフィッシュ**、**カダヤシ**、スズキ、**ブルーギル**、マハゼ、シモフリシマハゼ、**アマチチブ**、ヒナハゼ 計9種  
 （底生動物）**カワヒバリガイ**、モトムラユリミミス、ユリミミス、**テナガエビ**など 計11種



### 花畑川（葛西用水合流地点）

9月5日/6日 晴れ/晴れ  
 【環境】 両岸とも直立護岸となっていて、ヨシなどの抽水植物はみられません。  
 【確認種】 **ガンコロウブナ**、**ギンブナ**、**ハクレン**、モツゴ、ボラ、**ブルーギル**、**オオクチバス**、マハゼ、**アマチチブ** 計9種



### 中川（葛西用水合流地点）

9月5日/6日 晴れ/晴れ  
 【環境】 直立護岸となっていますが、一部で泥の堆積と植物の生育がみられます。干潮時には一部で泥干潟が干出します。  
 【確認種】 **ニゴイ**、ボラ、シマイサキ、マハゼ、**アマチチブ** 計5種



橙色枠の地点：様々なタイプの生活型が多い

水色枠の地点：淡水魚の生活型が多い

赤色の種：重要種

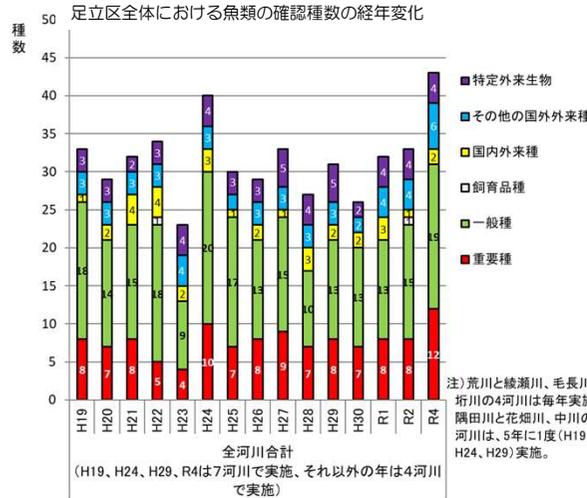
青色の種：国外外来種（下線は特定外来生物を示す）

紫色の種：国内外来種・飼育品種

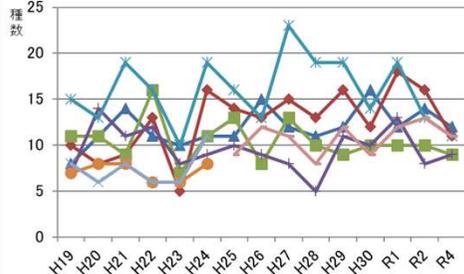
# 令和4年度 河川魚類等調査・採集委託 報告書（概要版）

## 経年変化

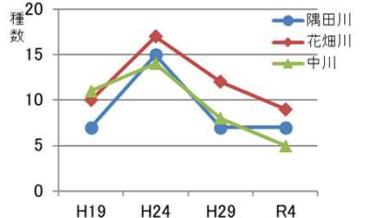
- ・今年度までの15年間で合計9目23科54種の魚類が確認されています。
- ・重要種はこれまで12魚種が確認されていて、毎年4～10種の間で推移しています。
- ・特定外来生物はこれまで5魚種が確認されていて、毎年2～5種の間で推移しています。
- ・多様な環境がみられる毛長川は、どの年度も多くの魚種が確認されています。ただ今年度は浚渫工事の影響が、やや減少しました。
- ・単調な環境の堀川は、どの年度も確認種数は少ないですが、近年はやや増加傾向がみられます。
- ・汽水域の荒川と綾瀬川は、その年の出水などの影響により、確認種数が変動することが考えられます。



調査地点ごとの魚類の確認種数の経年変化 (毎年実施の4河川)



調査地点ごとの魚類の確認種数の経年変化 (5年ごとに実施の3河川)



## 着目種

- ・今年度調査では、ヒナハゼが内匠橋、荒川にて確認された。地球温暖化の指標になりうる種であり、今後の動向が注目されます。
- ・令和2年度に引き続き、特定外来生物が確認されています。確認種は、魚類4種（カダヤシ、ブルーギル、オオクチバス、チャネルキャットフィッシュ）、底生動物1種（カワヒバリガイ）、両生類1種（ウシガエル幼生）の合計4種であった。
- ・特定外来生物となる魚類は、花畑川等の閉鎖的な環境で多くの個体が確認されており、今後個体数の増加が懸念されます。
- ・H24年度から継続して確認されている特定外来生物のカワヒバリガイは、今年度も確認されました。本種は、大量に増加すると、水道施設等に大量に固着し、通水被害等を引き起こす恐れがあるため、今後の動向に注意する必要があります。



## まとめ

- ・足立区には、さまざまな環境の河川がみられ、それぞれの河川に特徴のある魚類相が形成されています。調査河川は、海域との連続性は高いですが、周辺水域（池・湿地等の氾濫原）との連続性は低いと考えられます。今後、より多くの生きものが棲める河川にするためには、池や湿地を再生するような取り組みを進めることが重要となります。



「新田わくわく水辺広場」(荒川河川敷)に造成された池

## 令和4年度調査 魚類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	荒川		綾瀬川		毛長川		堀川	隅田川	花畑川	中川	生活型	重要種	外来種
				新田3丁目地先	千住新橋緑地	内匠橋上流付近	桑袋ビオトープ公園付近	ふれあい橋上流付近	新田さくら公園付近							
1	ウナギ	ウナギ	ニホシウナギ	6	2									遡河	国:EN,都:EN	
2	ニシン	ニシン	コメノシロ	1										遡河		国外
3	コイ	コイ	コイ(熊本産)	2						2				遡河	(国:EN)	国内
4			フシゴロウナギ									1		遡河	都:DD	国外
5			シシトウ									1		遡河		国外
6			タイワバラタナゴ							3	35			遡河		国外
7			ハナレン									4		遡河		国外
8			ハム	1										遡河	(国:NT)	国内
9			オオカワ				1							遡河	都:DD	
10			ウグイ		1		1							不明		
11			モツゴ							120		81		遡河		
12			タモロコ							1	2			遡河		
13			フナボク							21	3			遡河	(国:EN)	国内
14			ヒヨドリ										1	遡河	都:NT	
15			スズキ科属	1	3					5	5			遡河		国内
16	ナマズ	アメリカナマズ	チャネルキャットフィッシュ			1							1	遡河		特定
17	ボラ	ボラ	ボラ	19	14				1	2		25	2	遡河		特定
18	カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ			1	1			3	1			遡河		特定
19	スズキ	スズキ	スズキ	4	10	2	1	4	1					遡河		特定
20	サンフィッシュ	ブルーギル	ブルーギル								6	1	13	遡河		特定
21			オオクチバス								2		5	遡河		特定
22	レイラギ	レイラギ	レイラギ	1										遡河		
23	シマイサギ	シマイサギ	シマイサギ		1								2	遡河		
24	ハゼ	マハゼ	マハゼ	30	40	9	10	7	1	14		2	3	18	河口	
25			アジシロハゼ											河口	都:NT	
26			アハハゼ	2	3									河口	都:NT	
27			シマフシマハゼ	15	18	2								河口		
28			ヌマチツ	20	5	4	16	10	2	27		1	3	10	両側	都:NT
29			トナハゼ	1			1							河口		
30			トウヨシノボリ類											不明	都:DD	
31			カウゴリ											両側	都:NT	
合計	7目	11科	31種	102個体 12種	98個体 11種	13個体 5種	32個体 3種	22個体 4種	11個体 3種	78個体 11種	180個体 11種	43個体 7種	113個体 9種	48個体 5種	-	9種

- 注) 1. 種名および分類は、『河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和4年度生物リスト 河川環境データベース』（国土交通省、令和4年）に準拠しています。
2. 表中の数字は確認個体数を示しています。
3. 生活型は加納ほか(2000)を参考に、以下のとおり区分しています。  
 淡水：淡水魚（生活史を淡水域で完結する種） 遡河：遡河回遊魚（産卵のために河川に遡上する種）  
 降河：降河回遊魚（産卵のために海へ下る種） 両側：両側回遊魚（生活史の一時期を海域で過ごす種）  
 河口：河口魚（河口域で全生活史をほぼ完結する種）  
 海水：海水魚（海域で産卵を行う種であり、基本的には河川淡水域では成長しない。）
4. **重要種（赤色で示した種）** なお、国内外種に該当する種は（ ）内に示し、集計から外しています。  
 国：EN・・・環境省RL(2020)の絶滅危惧I B類、 国：VU・・・環境省RL(2020)の絶滅危惧II類、  
 国：DD・・・環境省RL(2020)の情報不足  
 都：CR+EN・・・東京都RL(2020)区部における絶滅危惧I類、 都：VU・・・東京都RDB(2013)区部における絶滅危惧II類、  
 都：NT・・・東京都RDB(2013)区部における準絶滅危惧、 都：留・・・東京都RDB(2013)区部における留意種
5. **国外来種（青色で示した種）**  
 特定・・・特定外来生物、 国外・・・特定外来生物以外の国外外来種
6. **国内外来種または飼育品種（紫色で示した種）**  
 国内・・・国内外来種（国内の他の地域から人為的に移入された種）、 品種・・・飼育品種  
 ※コイ（型不明）は大陸型の可能性があるため、国外来種としております。

## 令和4年度調査 底生動物確認種一覧

調査地点	確認種	合計
内匠橋上流付近	カワヒバリガイ(特定、国外緊対、国外)、シジミ属、ウロコムシ科、カワゴカイ属、モトムリミズ、ユリミズ、ミズミズ科、テナガエビ(都:留)、カマガタユスリカ属、ホソユスリカ属、ヒゲユスリカ属	11種類
桑袋ビオトープ公園付近	ミマサカジーカイメン(国外)、ヒメタニシ、カワヒバリガイ(特定、国外緊対、国外)、シジミ属、エラムミズ、ウチワミズ属、モトムリミズ、フトゲユリミズ、ユリミズ、ミズミズ科、カワリヌマエビ属(国外+国内)、テナガエビ(都:留)、スジエビ(都:留)、クロベンケイガニ(都:留)	14種類

重要種(赤色で示した種) 都:留・・・東京都RDB(2020)区部における留意種  
 外来種(青色で示した種) 特定・・・特定外来生物、 国外・・・特定外来生物以外の国外外来種